

これからの社会と 子どもたちの未来

～少子化時代に向け町学校教育審議会から答申～

平成27年9月、町学校教育審議会(塚野弘明会長)が発足。町教育委員会は審議会に対して「少子化の時代における町立学校の教育の在り方」についての検討を依頼(諮問)しました。審議会の委員は、学識経験者や民生児童委員、小学校に入学する前の子どもや小学生の保護者、公募委員など13人。これからやって来る社会は、予測できない出来事や多様な価値観で溢れるため、他人とうまく関わっていく必要があるとの考えから、そのような力を持った子どもたちを育むために何が必要かなどを話し合いました。

依頼に対する回答となるのが、答申です。審議会は、平成28年9月に第一次の答申を、今年8月には第二次の答申を町教育委員会に提出しています。ここでは、この内容を紹介します。

I 教育委員会から学校教育審議会に依頼したこと(諮問)

■平成27年9月29日 諮問

◆町の子どもたちを取り巻く状況・課題

- 全国的な傾向としての少子化が、紫波町でも著しい
- 多様で予測不可能な社会をたくましく生き抜いていく力が必要となる
- 子どもたちの知・徳・体や社会性などをもっと伸ばさせる必要がある

◆これらのことを乗り越えていくために、学校教育審議会に検討を諮問



諮問事項：少子化の時代における町立学校の教育の在り方について

- ①小中学校時代にどのような資質・能力を育てていけばいいのか。
- ②検討した資質・能力について、どのような教育環境で育めばいいのか。



Ⅱ 最初に学校教育審議会が確認・調査したこと

Ⅱ-1 今の子どもたちが将来生きていくことになる社会とは

◆世界の経済学者・未来学者・文部科学省などの近未来予測によると

1 正しい答えのない予測不可能で先を見通すことが難しい社会が到来する

- 我が国は今後、世界に類を見ない速さで少子・高齢化が進む
- グローバル化が急速に進展し、「人・もの・情報」が目まぐるしく変化する
- 学校とはただ単に勉強する場所ではなく、先生や同級生から多くのことを学び、自制心や、やり抜く力を培う場所となる

2 多様な価値観が認められる社会が到来する

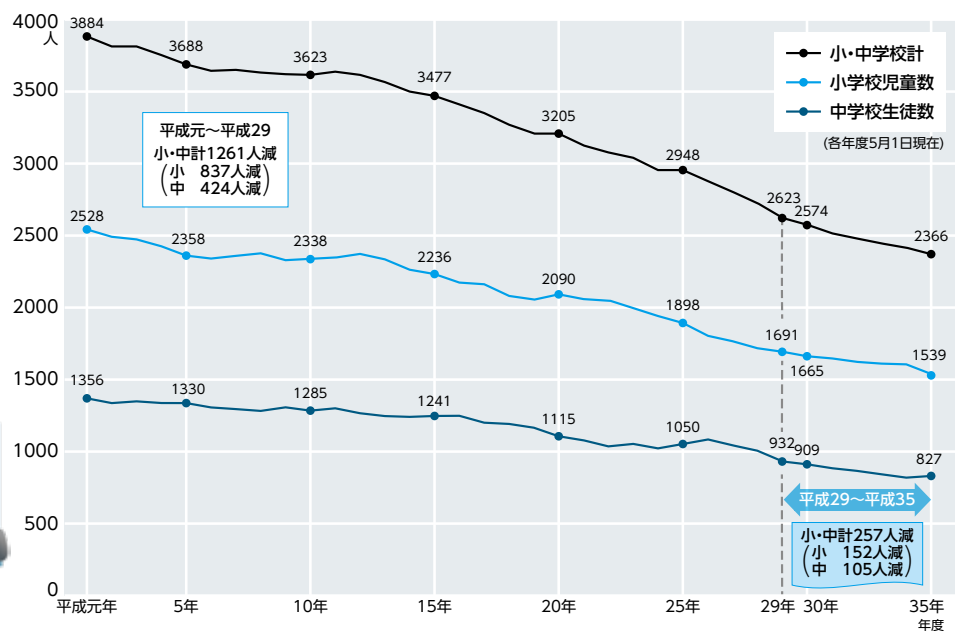
- 「異なる意見の人との対話力」、「複眼的思考力」が必要となる
- 多様な情報をつなぎ合わせ、自分なりに納得のいく方向性を定めていく力が大切となる

3 職業の種類や働き方が大きく変化する社会が到来する

- 近い将来、約5割の仕事が自動化される可能性が高い
- 現在の子どもの約6割は、学校卒業後、今はまだ存在していない職業に就く

Ⅱ-2 町の児童生徒数の推移と見通し

◆町の児童生徒数の推移と今後の見通しは右図のとおりです。西部地区・東部地区においては少子化が進んでいます。



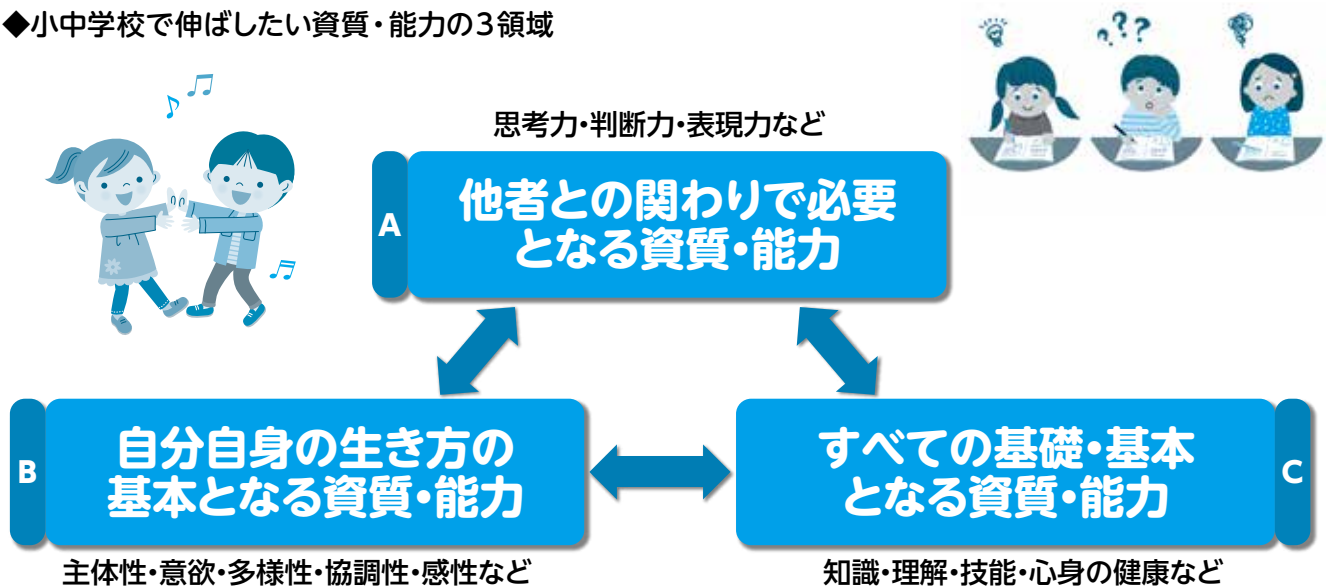
Ⅲ 学校教育審議会が検討・協議したこと（答申）

◆審議会では町教育委員会から諮問されたことについて、1年目は諮問事項の①について、2年目は諮問事項の②について検討・協議がなされました。

Ⅲ-1 第一次答申「小中学校で伸ばしたい資質・能力」[平成28年9月答申]

- 検討の結果、小中学校で伸ばしたい資質・能力が3領域に類型化されています。
- 3領域とは、【A 他者との関わりで必要となる資質・能力】、【B 自分自身の生き方の基本となる資質・能力】、【C すべての基礎・基本となる資質・能力】です
- 子どもたちは常に、3領域相互と関わりを持ちながら生きる力を育むこととなります
- 審議会では、3領域の中で【A 他者との関わりで必要となる資質・能力】が最も重要となる領域として審議が進められました。A領域について詳細に検討したのが、「発達段階で伸ばしたい資質・能力モデル（抜粋）」です

◆小中学校で伸ばしたい資質・能力の3領域



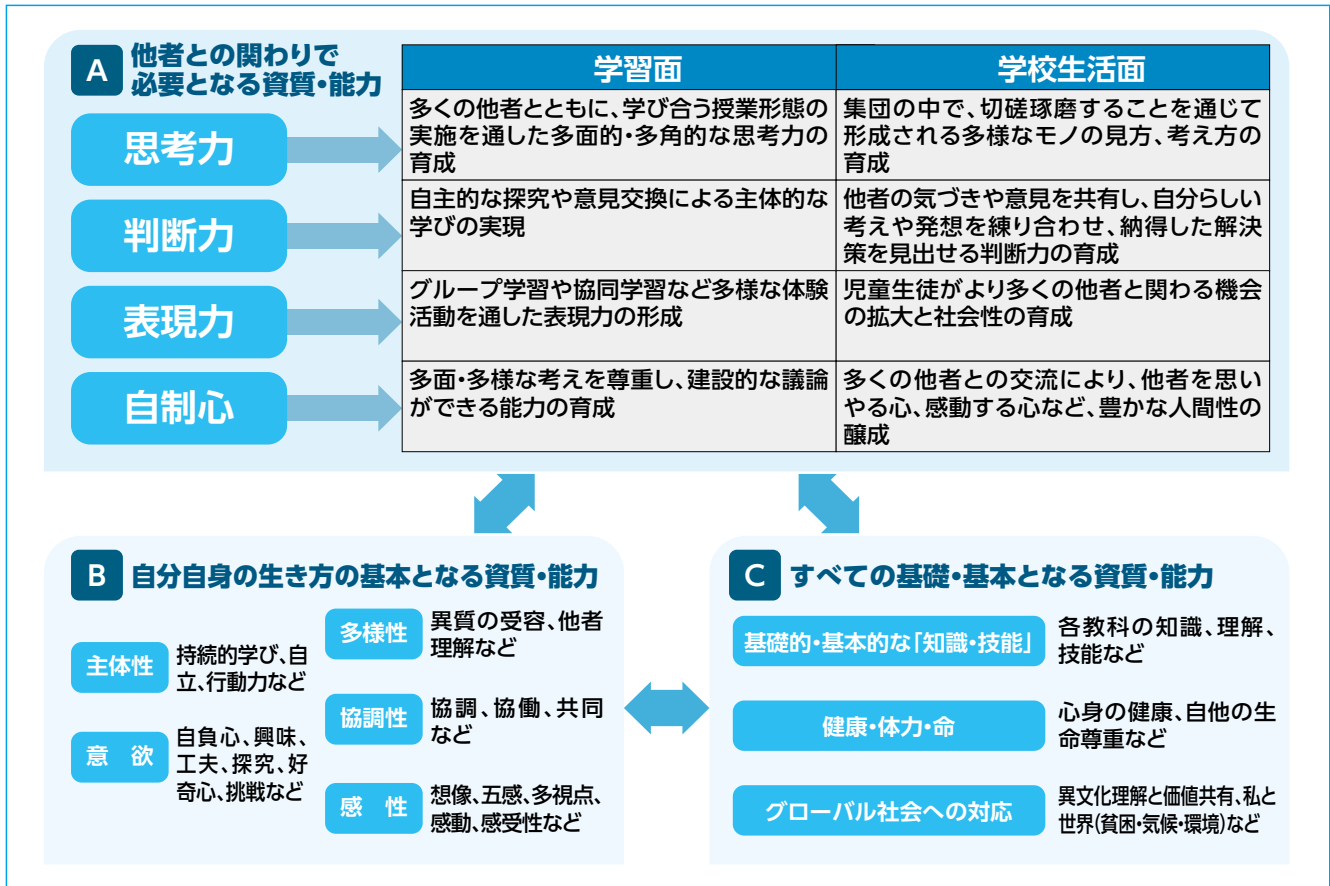
◆発達段階で伸ばしたい資質・能力モデル (抜粋)

大分類	項目	小分類	資質・能力	具体の要素	就学前	小学校		中学校
						低学年	高学年	
A	他者との関わりで必要となる資質・能力	A1	思考力	・創造力 ・熟慮 ・探究 ・論理的思考 ・学んだことの生活化 など	→			
		A2	判断力	・課題発見 ・自主的調査 ・情報の取集理解 ・自己肯定力 ・選択力 ・決定力 など	→			
		A3	表現力	・自分なりの表現及び姿勢 ・対話力 ・他者への思いやり ・コミュニケーション力 ・話す力(日本語・英語) など	→			
		A4	自制心	・適応力 ・コントロール力 ・忍耐力 ・倫理観 ・道徳観 ・規範意識 など	→			

Ⅲ-2 第二次答申「新しい時代に向けた望ましい教育環境」【平成29年8月答申】

- 審議会では、第一次答申内容の具体化を図るため、町の子どもたちが学んでいく「望ましい学校環境の在り方」について検討・協議を進めました
- この検討でも【A 他者との関わりで必要となる資質・能力】について注視し、学習や学校生活での場面を想定しながら議論を深めました
- 検討・協議の結果、第二次答申「教育環境の考え方・具体的提案例」として町教育委員会に提出されました

◆児童生徒に「生きる力」を育むための教育環境の在り方



◆新しい時代に向けた望ましい教育環境の考え方

■多くの他者とともに切磋琢磨できる環境

グループ学習や協同学習などの多様な授業形態や体験を実施し、多くの他者とともに、考え合い、理解し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の多面的・多角的な思考力・判断力・表現力などをより一層伸ばすことができる教育環境が望ましい。

■他者と自分を練り合わせて納得する解答を導き出していける環境

集団の中で多様な考えに触れ合うことで、社会性、コミュニケーション力、協調性、思いやりなどを育むことにより、他者の気づきや意見を共有し、自分らしい考えや発想を練り合わせ、納得した自分なりの生き方を見出せる力を伸ばす教育環境が望ましい。

◆「望ましい教育環境」の実現に向けた具体的な提案

- 例1)クラス替えができる学年規模が望ましい
- 例2)1学級あたりの児童生徒数は20人から25人程度が望ましい

IV 今後の町の取り組みについて

町は今後、第一次答申および第二次答申の内容を踏まえ、「少子化の時代における町立学校の教育の在り方」について検討を進め、平成30年3月までに学校教育環境の整備に関する基本計画(案)を策定します。また、平成30年度の早い段階で、その基本計画(案)を基に、保護者や地域住民との意見交換会やアンケートなど、総合的な観点から教育環境の在り方について議論を深めていきます。

※答申書の詳細については、町ホームページ (<http://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/5/1/2/2/index.html>) をご覧ください。